
御 坊 市 人口ビジョン



平成28年2月
御 坊 市

目 次

1. はじめに	1
(1) 御坊市人口ビジョンの目的	1
(2) 国の長期ビジョン、総合戦略	1
(3) 和歌山県の長期人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略	2
2. 御坊市の人口の現状	3
(1) 人口の推移	3
(2) 人口ピラミッド	4
(3) 出生・死亡、転入・転出の推移	5
(4) 合計特殊出生率の推移	6
(5) 総人口の推移にあたえてきた自然増減及び社会増減の影響	7
(6) 年齢階級別純移動数の時系列分析	8
(7) 転入元・転出先の状況	9
(8) 5歳階級別の転入・転出者数	10
3. 将来展望の導出に係る市民意向調査	11
(1) 市内に在住する高校生のアンケート調査	11
(2) 過去5年間の市転入者へのアンケート調査	12
4. 御坊市の人口についての課題	13
(1) 御坊市の人口に関する特徴	13
(2) 御坊市の目指すべき将来の方向	13
5. 人口の将来展望	14

1. はじめに

(1) 御坊市人口ビジョンの目的

全国的に急速に進む人口減少問題を克服し、地方創生を成し遂げることを目的に、平成26年11月28日に「まち・ひと・しごと創生法」が施行され、これに基づき、国は12月27日に「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと総合戦略」を発表し、今後の「地方創生」の方向性を示しました。

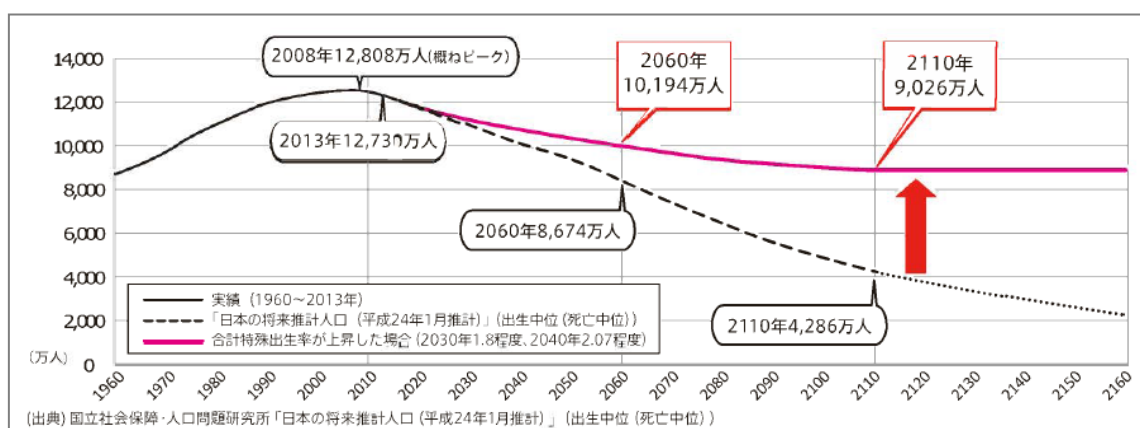
御坊市人口ビジョンは、「まち・ひと・しごと創生 長期ビジョン」の趣旨に基づき、本市における人口の現状分析を行い、人口に関する意識を市全体で共有するとともに、人口に関して今後目指すべき方向性と将来展望を示すことを目的とします。

(2) 国の長期ビジョン、総合戦略

日本の総人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計において2060年で8,674万人とされています。

それに対して国の長期ビジョン及び総合戦略では、以下の4つの基本目標を立て、2060年に1億人程度の人口を確保することを掲げています。

- 基本目標①：地方における安定した雇用を創出する
- 基本目標②：地方への新しいひとの流れをつくる
- 基本目標③：若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 基本目標④：時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する



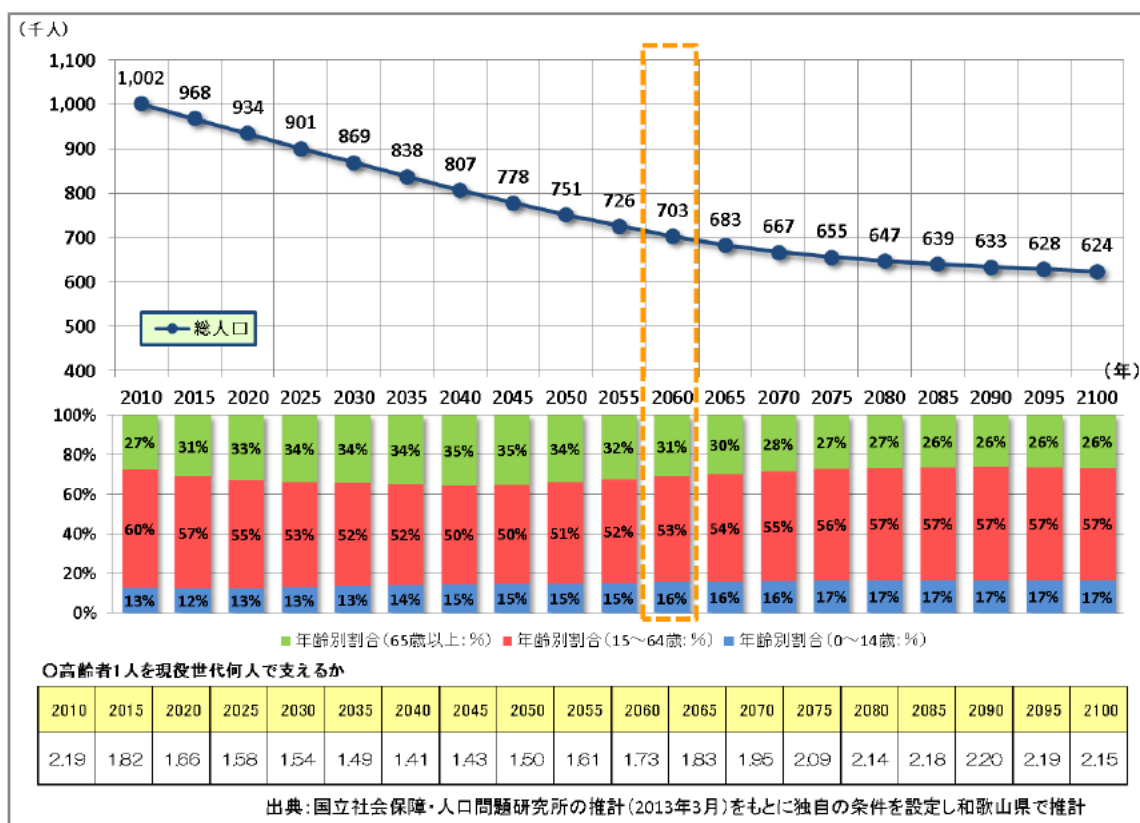
(資料：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、
まち・ひとしごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」)

(3) 和歌山県の長期人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略

和歌山県の総人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計において 2060 年で 52.5 万人とされています。

それに対して和歌山県の長期人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略では、以下の5つの基本目標を立て、2060 年に高齢者 1 人を現役世代 2 人で支える人口形態である 70.3 万人の人口を確保することを掲げています。

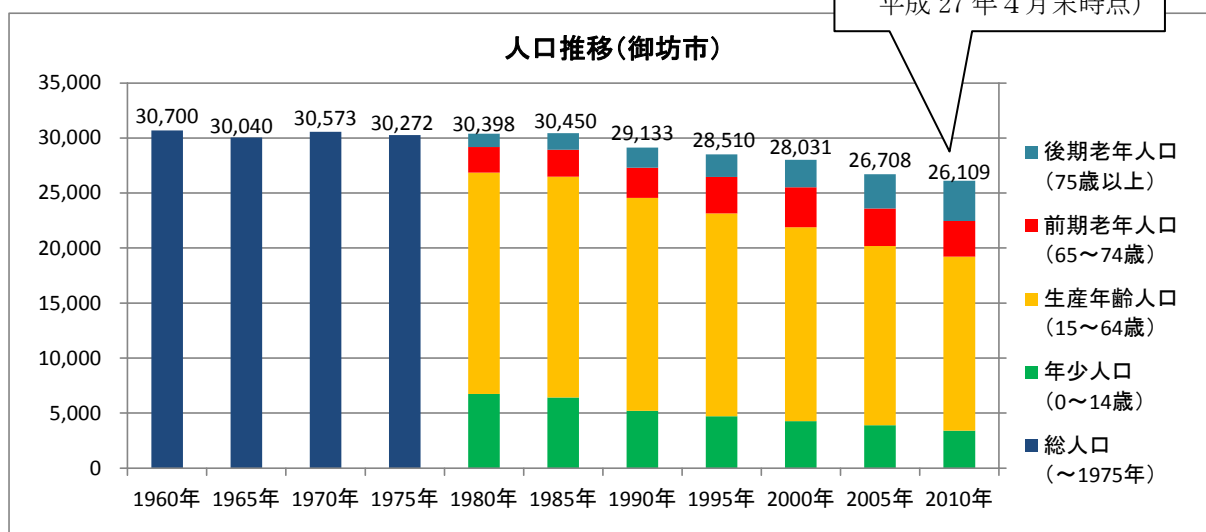
- 基本目標①：安定した雇用を創出する
- 基本目標②：和歌山県への新しい「ひとの流れ」を創造する
- 基本目標③：少子化をくい止める
- 基本目標④：安全・安心な暮らしを実現する
- 基本目標⑤：時代に合った地域をつくる



(資料：和歌山県、「和歌山県長期人口ビジョン」)

2. 御坊市の人口の現状

(1) 人口の推移

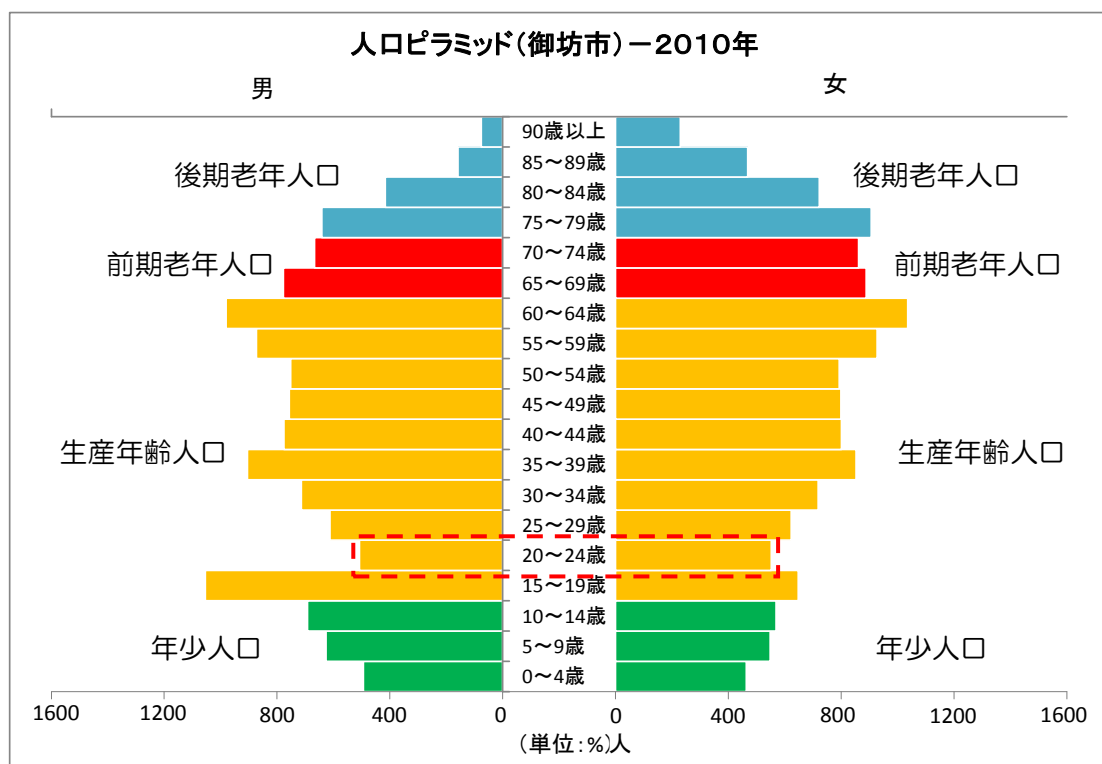
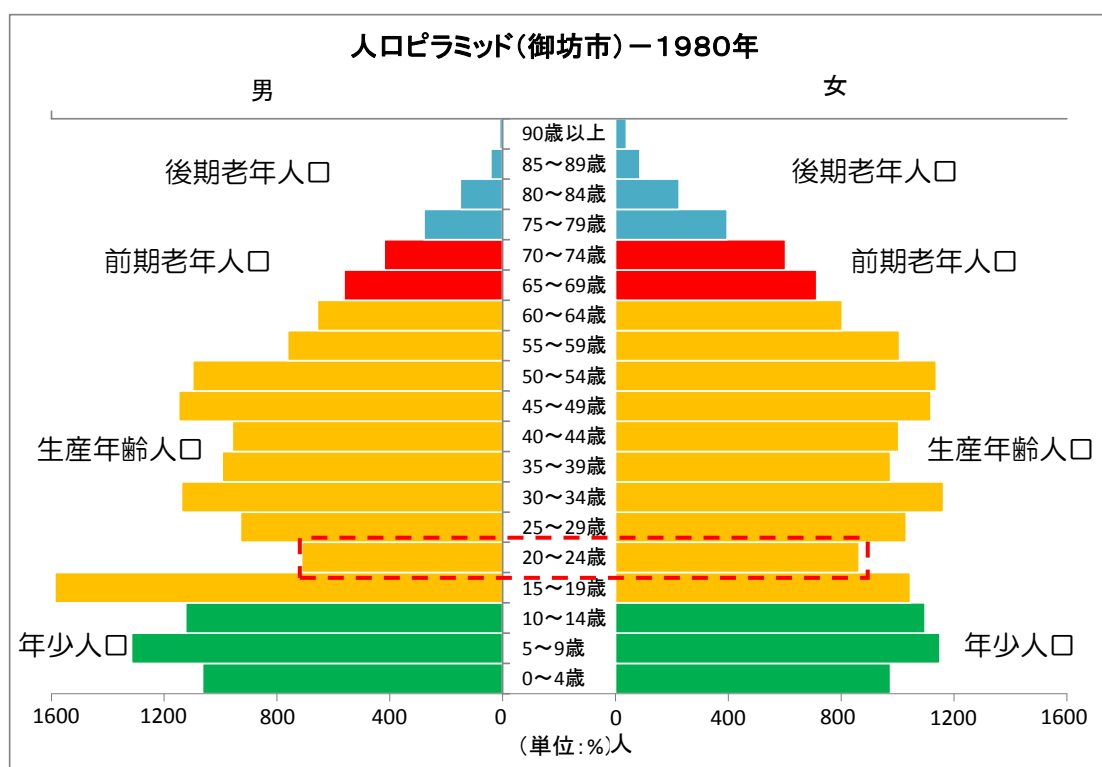


(資料:「国勢調査」)

	総人口 (人)	年少人口 (0~14歳)		生産年齢人口 (15~64歳)		前期老年人口 (65~74歳)		後期老年人口 (75歳以上)	
		人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)
1960年	30,700	—	—	—	—	—	—	—	—
1965年	30,040	—	—	—	—	—	—	—	—
1970年	30,573	—	—	—	—	—	—	—	—
1975年	30,272	—	—	—	—	—	—	—	—
1980年	30,398	6,727	22.1%	20,142	66.3%	2,299	7.6%	1,230	4.0%
1985年	30,450	6,421	21.1%	20,067	65.9%	2,435	8.0%	1,527	5.0%
1990年	29,133	5,213	17.9%	19,334	66.4%	2,759	9.5%	1,827	6.3%
1995年	28,510	4,705	16.5%	18,449	64.7%	3,304	11.6%	2,052	7.2%
2000年	28,031	4,263	15.2%	17,625	62.9%	3,627	12.9%	2,516	9.0%
2005年	26,708	3,888	14.6%	16,306	61.1%	3,400	12.7%	3,114	11.7%
2010年	26,109	3,401	13.0%	15,815	60.6%	3,231	12.4%	3,662	14.0%

- ・本市の総人口は、1985 年までは 30,000 人以上を維持していましたが、以降は減少傾向にあり、2010 年時点で 26,109 人となっています。
- ・1980 年以降年少人口は減少し、老年人口は増加しており、少子高齢化が進行しています。

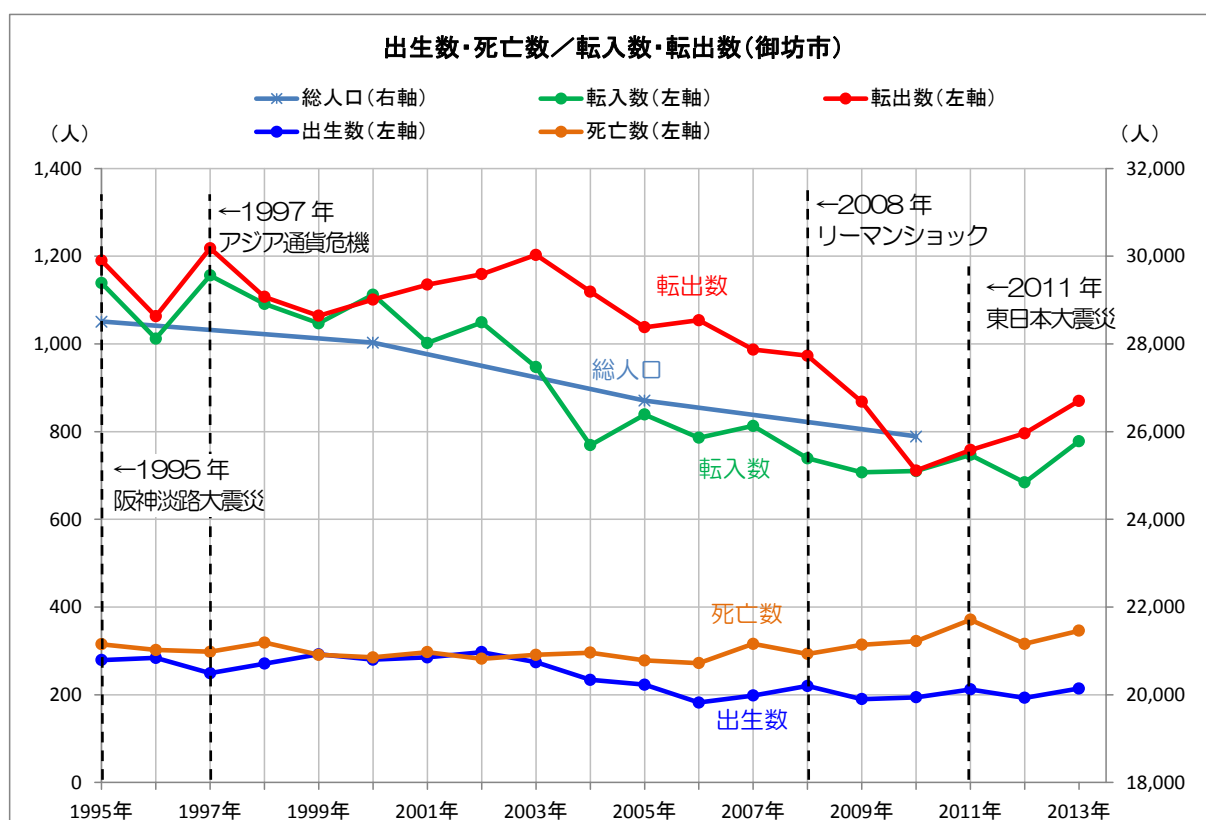
(2) 人口ピラミッド



(資料: 「国勢調査」)

- ・1980年、2010年ともに20～24歳の人口減少が著しく、進学・就職等により市外へ流出していることが分かります。
- ・1980年、2010年ともに15～19歳（特に男性）の人口が多くなっている理由としては、和歌山工業高等専門学校は1、2年生が全寮制であることが考えられます。

(3) 出生・死亡、転入・転出の推移



(単位: 人)	総人口	転入数	転出数	出生数	死亡数
1995年	28,510	1,139	1,190	279	315
1996年	—	1,012	1,063	284	302
1997年	—	1,156	1,218	249	298
1998年	—	1,091	1,107	271	319
1999年	—	1,047	1,064	292	291
2000年	28,031	1,112	1,101	280	285
2001年	—	1,002	1,135	285	297
2002年	—	1,049	1,159	297	282
2003年	—	947	1,203	274	291
2004年	—	769	1,119	234	296
2005年	26,708	839	1,038	223	278
2006年	—	786	1,054	182	272
2007年	—	813	987	198	316
2008年	—	739	973	220	293
2009年	—	707	868	190	314
2010年	25,890	710	711	194	322
2011年	—	747	758	212	371
2012年	—	684	796	193	316
2013年	—	778	870	214	346

(資料:「国勢調査」、「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」)

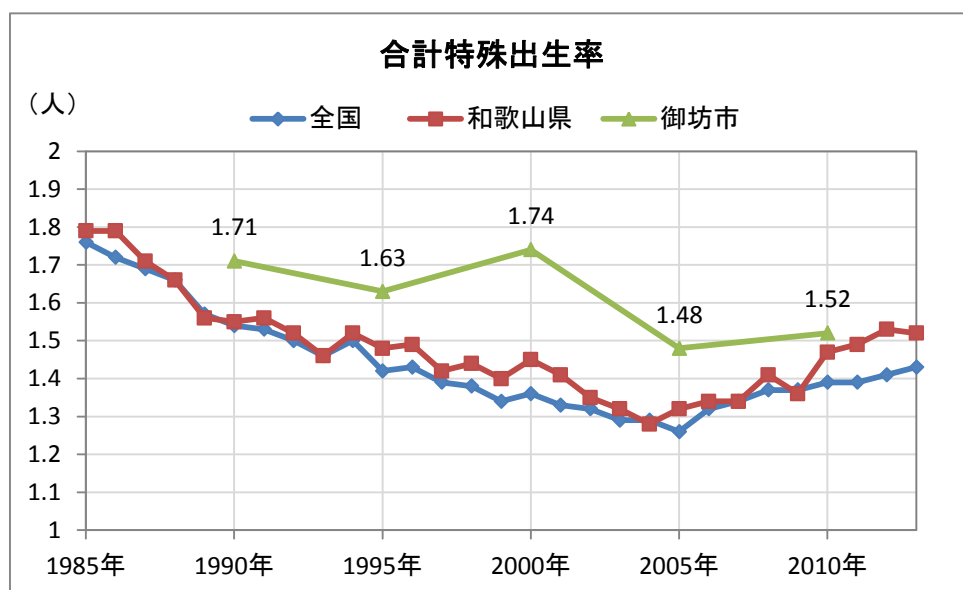
《出生数・死亡数》

- ・2003 年頃までは出生者、死亡者の数がほぼ同等で推移していましたが、2004 年以降は死亡数が出生数を上回っており（自然減）、差は大きくなりつつあります。

《転入数・転出数》

- ・2000 年以降、転出数が転入数を大きく上回っていましたが、2010 年からは転入数と転出数は同程度となっています。

(4) 合計特殊出生率の推移



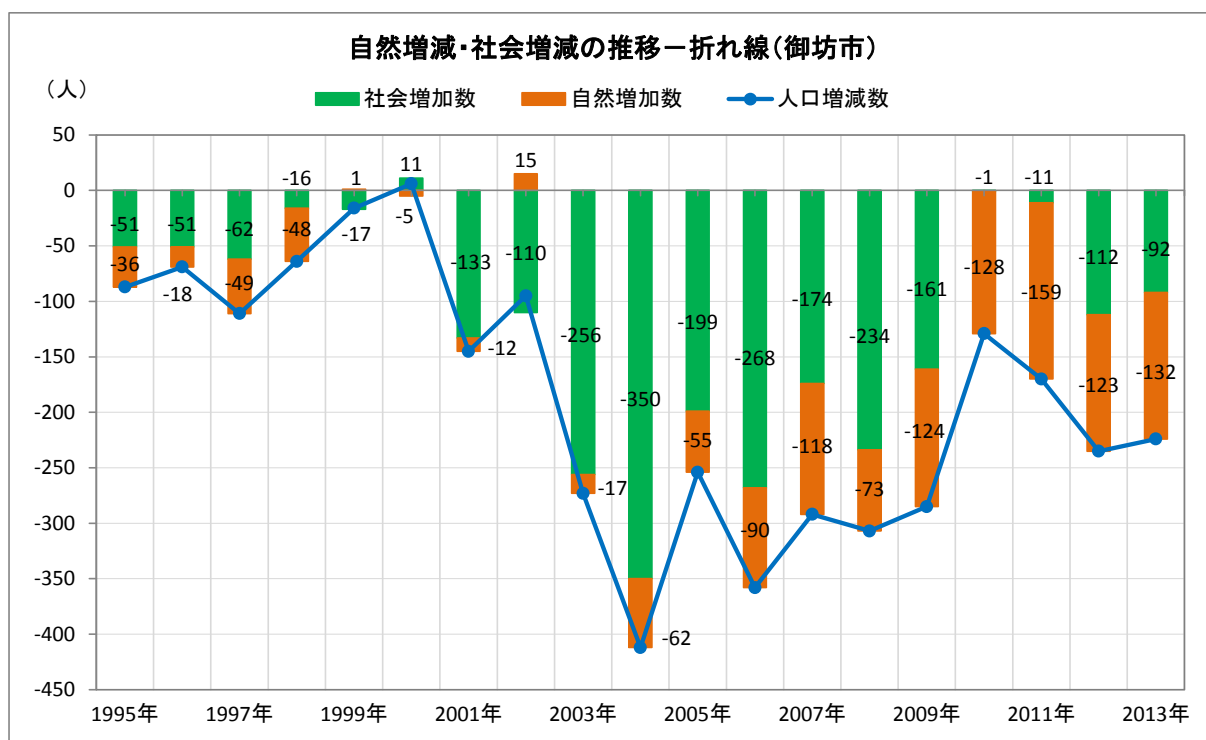
(単位: 人)	全国	和歌山県	御坊市
1985年	1.76	1.79	—
1986年	1.72	1.79	—
1987年	1.69	1.71	—
1988年	1.66	1.66	—
1989年	1.57	1.56	—
1990年	1.54	1.55	1.71
1991年	1.53	1.56	—
1992年	1.5	1.52	—
1993年	1.46	1.46	—
1994年	1.50	1.52	—
1995年	1.42	1.48	1.63
1996年	1.43	1.49	—
1997年	1.39	1.42	—
1998年	1.38	1.44	—
1999年	1.34	1.4	—

(単位: 人)	全国	和歌山県	御坊市
2000年	1.36	1.45	1.74
2001年	1.33	1.41	—
2002年	1.32	1.35	—
2003年	1.29	1.32	—
2004年	1.29	1.28	—
2005年	1.26	1.32	1.48
2006年	1.32	1.34	—
2007年	1.34	1.34	—
2008年	1.37	1.41	—
2009年	1.37	1.36	—
2010年	1.39	1.47	1.52
2011年	1.39	1.49	—
2012年	1.41	1.53	—
2013年	1.43	1.52	—

(資料: 「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」、「第2次御坊市男女共同参画プラン」)

- ・合計特殊出生率は、御坊市、和歌山県平均、全国平均いずれも 2005 年まで減少傾向となり、その後増加傾向へと転じています。
- ・本市の合計特殊出生率は、2010 年時点で 1.52 と全国平均及び和歌山県の平均を上回っているものの、人口を長期的に一定に保てる水準である 2.07 を大きく下回っています。

(5) 総人口の推移に与えてきた自然増減及び社会増減の影響

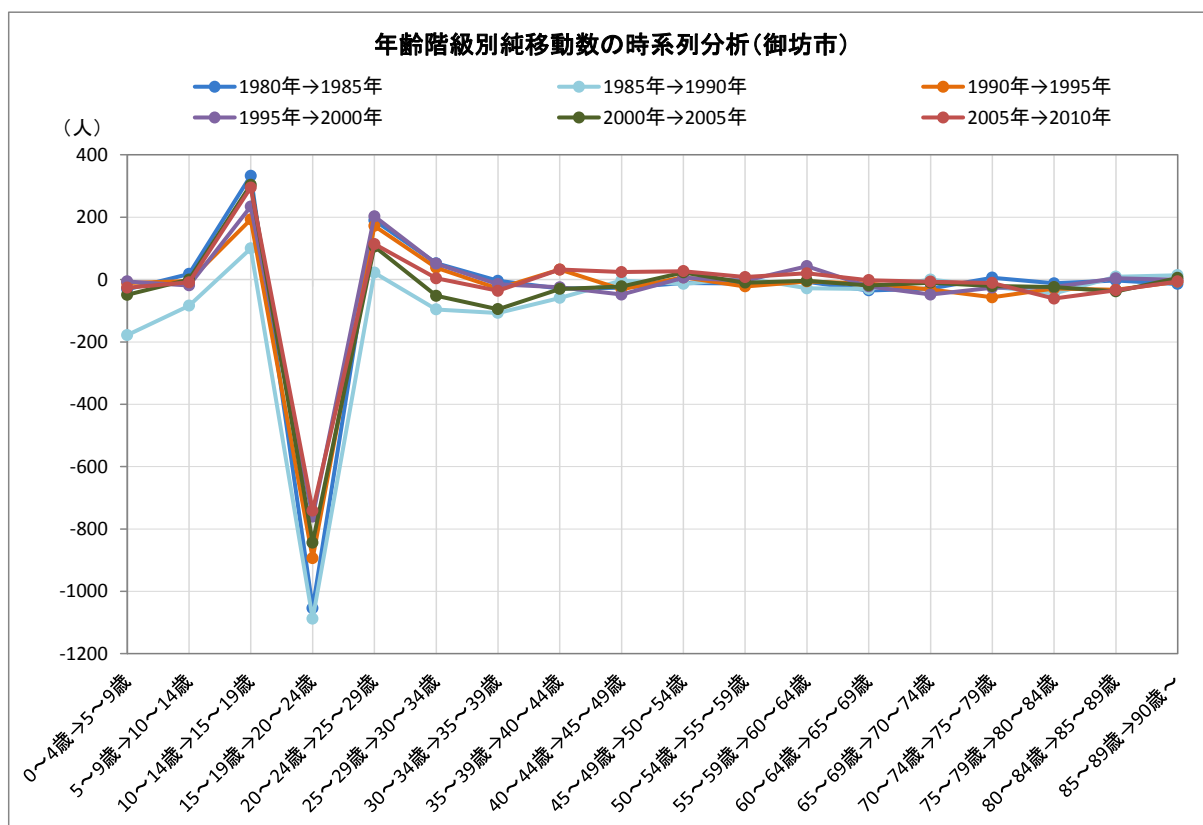


(単位:人)	自然増加数	社会増加数	人口増減数
1995年	-36	-51	-87
1996年	-18	-51	-69
1997年	-49	-62	-111
1998年	-48	-16	-64
1999年	1	-17	-16
2000年	-5	11	6
2001年	-12	-133	-145
2002年	15	-110	-95
2003年	-17	-256	-273
2004年	-62	-350	-412
2005年	-55	-199	-254
2006年	-90	-268	-358
2007年	-118	-174	-292
2008年	-73	-234	-307
2009年	-124	-161	-285
2010年	-128	-1	-129
2011年	-159	-11	-170
2012年	-123	-112	-235
2013年	-132	-92	-224

(資料:「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」)

・2004年以前は社会減による影響が大きく、2004年以降は自然減による影響が大きくなりつつあります。

（６）年齢階級別純移動数の時系列分析



(単位: 人)	1980年 →1985年	1985年 →1990年	1990年 →1995年	1995年 →2000年	2000年 →2005年	2005年 →2010年
0～4歳→5～9歳	-31	-178	-11	-6	-49	-26
5～9歳→10～14歳	18	-84	-5	-19	0	-9
10～14歳→15～19歳	333	100	193	234	304	295
15～19歳→20～24歳	-1054	-1088	-894	-761	-844	-741
20～24歳→25～29歳	190	22	172	203	106	114
25～29歳→30～34歳	52	-96	38	51	-52	4
30～34歳→35～39歳	-4	-107	-29	-15	-95	-36
35～39歳→40～44歳	-29	-59	32	-25	-30	32
40～44歳→45～49歳	-26	-3	-31	-48	-22	24
45～49歳→50～54歳	-11	-14	7	6	23	27
50～54歳→55～59歳	-13	5	-22	-4	-10	8
55～59歳→60～64歳	-7	-28	-6	43	-4	20
60～64歳→65～69歳	-35	-30	-13	-22	-19	-2
65～69歳→70～74歳	-29	0	-32	-48	-10	-7
70～74歳→75～79歳	6	-23	-57	-26	-21	-11
75～79歳→80～84歳	-12	-45	-29	-24	-24	-61
80～84歳→85～89歳	-3	9	-33	4	-38	-34
85～89歳→90歳～	-14	14	-7	-1	5	-6

(資料: 「国勢調査」「住民基本台帳人口移動報告」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成)

- すべての調査年において10歳代前半から10歳代後半にかけて及び20歳代前半から20歳代後半にかけて転入超過となっており、10歳代後半から20歳代前半にかけて大きく転出超過となっています。
- 大学進学等を機に本市を離れた人が、就職後も本市に戻ってこないことが考えられます。

(7) 転入元・転出先の状況

《2012 年 御坊市への転入》

転入元	総数	割合
総転入者数	712	100.0%
和歌山県内	418	58.7%
美浜町	71	10.0%
和歌山市	56	7.9%
印南町	54	7.6%
日高川町	52	7.3%
日高町	40	5.6%
由良町	38	5.3%
県外	294	41.3%
大阪府	117	16.4%

《2012 年 御坊市からの転出》

転出先	総数	割合
総転出者数	805	100.0%
和歌山県内	465	57.8%
和歌山市	93	11.6%
美浜町	70	8.7%
日高町	58	7.2%
日高川町	47	5.8%
県外	340	42.2%
大阪府	147	18.3%

《2013 年 御坊市への転入》

転入元	総数	割合
総転入者数	706	100.00%
和歌山県内	463	65.58%
美浜町	93	13.17%
日高川町	78	11.05%
和歌山市	54	7.65%
日高町	40	5.67%
県外	243	34.42%
大阪府	95	13.46%

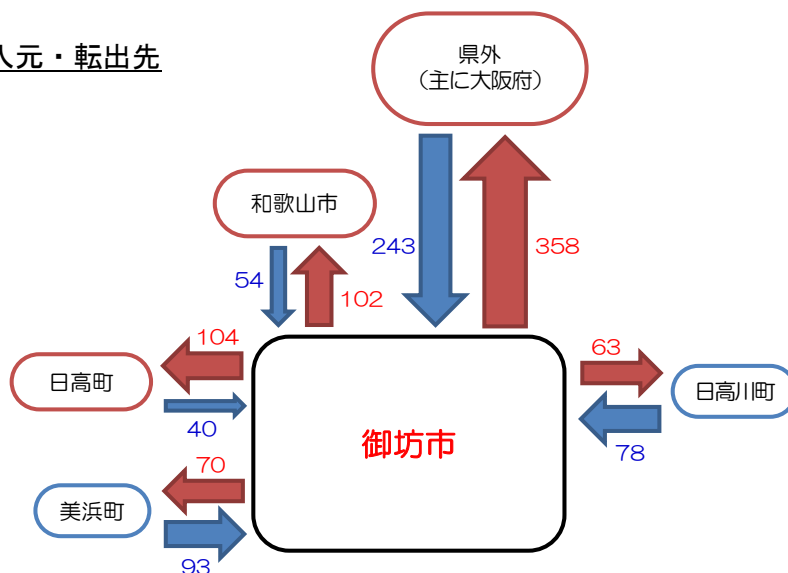
《2013 年 御坊市からの転出》

転出先	総数	割合
総転入者数	865	100.0%
和歌山県	507	58.6%
日高町	104	12.0%
和歌山市	102	11.8%
美浜町	70	8.1%
日高川町	63	7.3%
県外	358	41.4%
大阪府	145	16.8%

(資料:「住民基本台帳人口移動報告」)

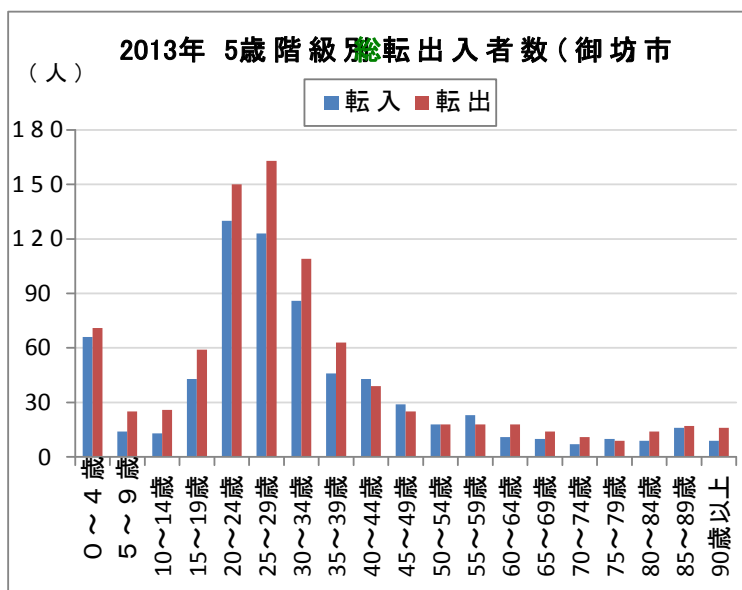
2013 年

御坊市の主な転入元・転出先

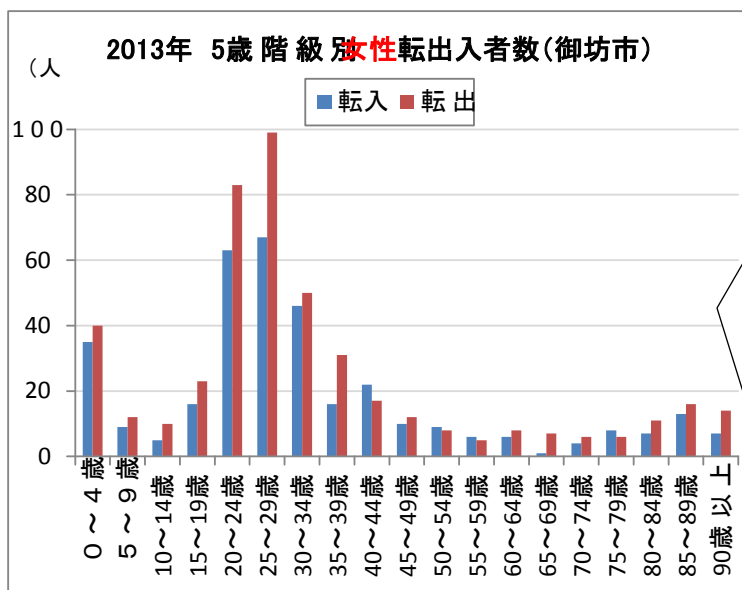
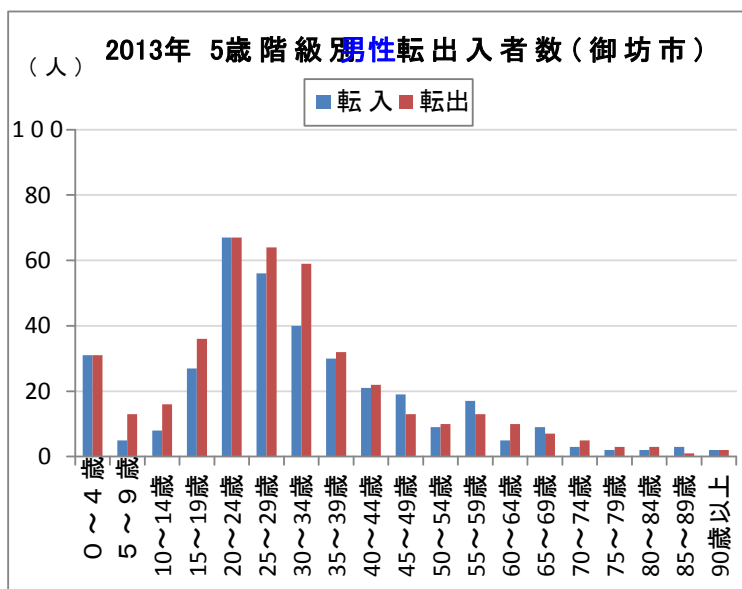


- ・本市への転入者数は、2012 年が 712 人、2013 年が 706 人となっています。
- ・総転入者数の 60%程度が和歌山県内からであり、その中でも 2013 年は美浜町が 13.2%で最も多くなっており、次いで日高川町が 11.1%、和歌山市が 7.7%の順となっています。
- ・本市からの転出者数は、2012 年が 805 人、2013 年が 865 人となっています。
- ・全体の 60%程度が和歌山県内への転出であり、その中でも 2013 年は日高町が 12.0%で最も多くなっており、次いで和歌山市が 11.8%、美浜町が 8.1%の順となっています。
- ・2013 年は日高町への転出超過が目立っています。

(8) 5 歳階級別の転入・転出者数

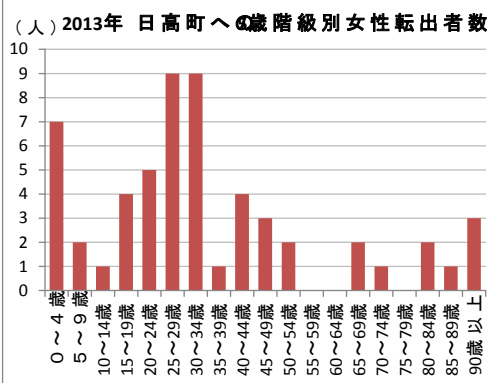
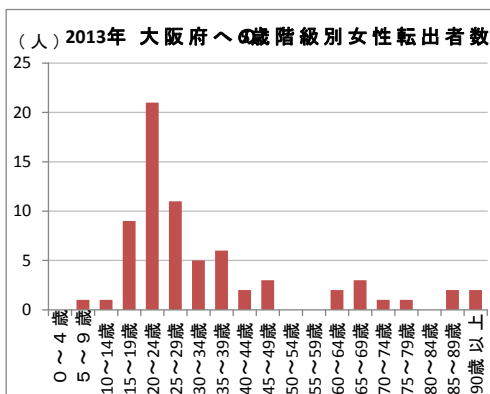


- ・ 男性は 25～29 歳と 30～34 歳、女性は 20～24 歳と 25～29 歳で転出超過数が多く、また、それ以上の年齢層では転出・転入の数がほぼ同等となっています。
- ・ 20～24 歳は進学や就職による転出、25～29 歳と 30～34 歳は結婚や出産等をきっかけとした転出が多くなっていると考えられます。
- ・ 特に、女性は、男性と比べて 25～30 歳の転出数と転入者の差が大きく、30 人以上の転出超過数となっています。転出先としては、日高町が多くなっています。



2013 年

御坊市の主な転入元・転出先 (女性)



3. 将来展望の導出に係る市民意向調査

(1) 市内に在住する高校生へのアンケート調査

①調査目的

本市の人口の社会増・自然増につなげるために、若い人が本市にとどまる、または一度出て戻りたくなる環境を形成するには何が必要かを導き出すことを目的に、市内に在住する 500 名の高校生を対象にアンケート調査を実施しました。

②調査結果

【配布・回収状況】

- ・対象：市内に在住する高校生
- ・配布日：2015 年 7 月 10 日
- ・配布数：500 通
- ・回収数：101 通
- ・回収率：20.2%

【各設問の単純集計結果概要】

- ◆今後の本市への居住意向では、「進学で市外に出た後、市に戻る」が約 30%で最も多くなっています。本市への居住意向がある人（「住み続けたい」、「どちらかと言えば住み続けたい」「進学で市外に出た後、市に戻る」、「就職で市外に出た後、市に戻る」）は 50%以上を占めています。
- ◆卒業後に本市に住む・戻ってくるための条件として、「希望の職種」があることが最も多く、次いで「住むところ」、「買い物環境」の順となっています。本市で就きたい職業では、「教員、公務員」が約 35%で最も多く、次いで「医療、福祉」となっています。
- ◆市内に興味がある仕事があるかについて、「ない」、「どんな仕事があるかよく知らない」がいずれも約 40%となっています。
- ◆結婚の意向を示している人（「結婚したい」、「できれば結婚したい」）が約 70%となっており、また、子供をもちたいとする人（「もちたい」、「できればもちたい」）が約 80%以上となっています。
- ◆本市への愛着や市の住みやすさについて 70%以上の人が好意的な回答としています。
- ◆重点的に取り組むべき施策としては、「教育環境の整備等」が最も多くなっています。



- ◇本市への居住意向や本市への愛着、住みやすさに対して好意的な回答する高校生は多いものの、今後も本市に住む・戻ってくる上では就業面で不安をもつ回答が多くなっています。
- ◇若者が今後も市に住む・戻ってくるためには、市内の仕事に関する情報発信や地場産業の振興、新たな産業の創出による環境整備が必要となっています。

(2) 過去 5 年間の市転入者へのアンケート調査

①調査目的

将来の社会増・自然増につなげるための主要なターゲットとなる若いファミリー世帯に本市に住んでもらうために、どのような施策が必要かを導き出すことを目的に、過去 5 年間に本市に転入してきた 20 歳以上の男女 1,000 名に調査を実施しました。

②調査結果

【配布・回収状況】

- ・対象：過去 5 年間に本市に転入してきた 20 歳以上の男女
- ・配布日：2015 年 7 月 10 日
- ・配布数：1000 通
- ・回収数：225 通
- ・回収率：22.5%

【各設問の単純集計結果概要】

- ◆転入の理由は、「職場の都合」、「結婚」、「親等との同居・近居」が主であり、他の市町村と比較せずに転入している人が多くなっています。
- ◆転居の際に重視した点は、「通勤・通学の利便性」や「買い物の利便性」が多く、実際に住んでみての評価として、「買い物の利便性」や「通勤・通学の利便性」、「自然環境の豊かさ」等については高い評価が得られ、「遊び場や公園の充実度」や「公共交通の利便性」、「安心・安全の充実度」についてはあまり高い評価が得られませんでした。
- ◆本市への愛着については約 50%、住みやすさについては約 70%の人が好意的な回答をしています。
- ◆子どもの人数について、現実的な人数は「2 人」が最も多く、次いで「0 人」となっています。理想の人数は「2 人」が最も多く、次いで「3 人」となっています。
- ◆現実と理想の子どもの人数に差がない人が最も多いですが、現実が理想よりも少ない人も約 25%となっています。現実が理想よりも少ない理由としては、「お金がかかりすぎる」が最も多く、次いで「結婚していない」、「高年齢」等の回答が多くなっています。
- ◆理想の子どもの人数の平均は 2.28 人となっています。
- ◆重点的に取り組むべき施策として、「子育てしやすいまち」が最も多く、次いで「保健・医療・福祉が充実したまち」、「産業の振興」の順となっています。



◇理想とする子どもの人数よりも現実的な子どもの人数が少ない人が一定割合いること、重点的に取り組むべき施策として「子育て支援の充実」が最も多いこと等から、出産・子育てに対する一層の支援を検討する必要があります。支援の内容としては、経済的な支援だけではなく、出産、子育てと仕事を両立しやすい環境整備等が考えられます。

4．御坊市の人口についての課題

（１）御坊市の人口に関する特徴

①若年層の近隣市町や大都市圏への流出

- ・男性、女性ともに、多くの10代、20代の若年層が進学や就職、結婚等を機に大阪を中心とした大都市圏や近隣市町へ転出し、その後も市へ戻ってきていません。
- ・本市は昼間人口が夜間人口を上回っており、日高圏域の就学・就労の場となっていますが、若いファミリー層が住宅取得の際に市外に流出する傾向にあります。
- ・市内に在住する高校生を対象にしたアンケート結果では、今後も本市に住み続けるもしくは戻ってくることを考えるとき、就業面で不安を持つ人が多くなっています。

②自然要因による人口減少の進行

- ・近年、自然要因による人口の減少が年々進行しており、それに伴い総人口の減少が急速に進んでいます。
- ・本市の合計特殊出生率は、2005年まで減少傾向にありましたが、その後は増加に転じ、現在は1.52と全国平均及び和歌山県平均を上回っているものの、人口規模が長期的に維持される水準を大きく下回る状態が続いています。
- ・アンケートの結果では、「お金がかかりすぎる」等の理由から、理想的の子ども数よりも、現実的な子ども数の下回っている人が多くなっています。

③居住者のまちへの高い愛着心

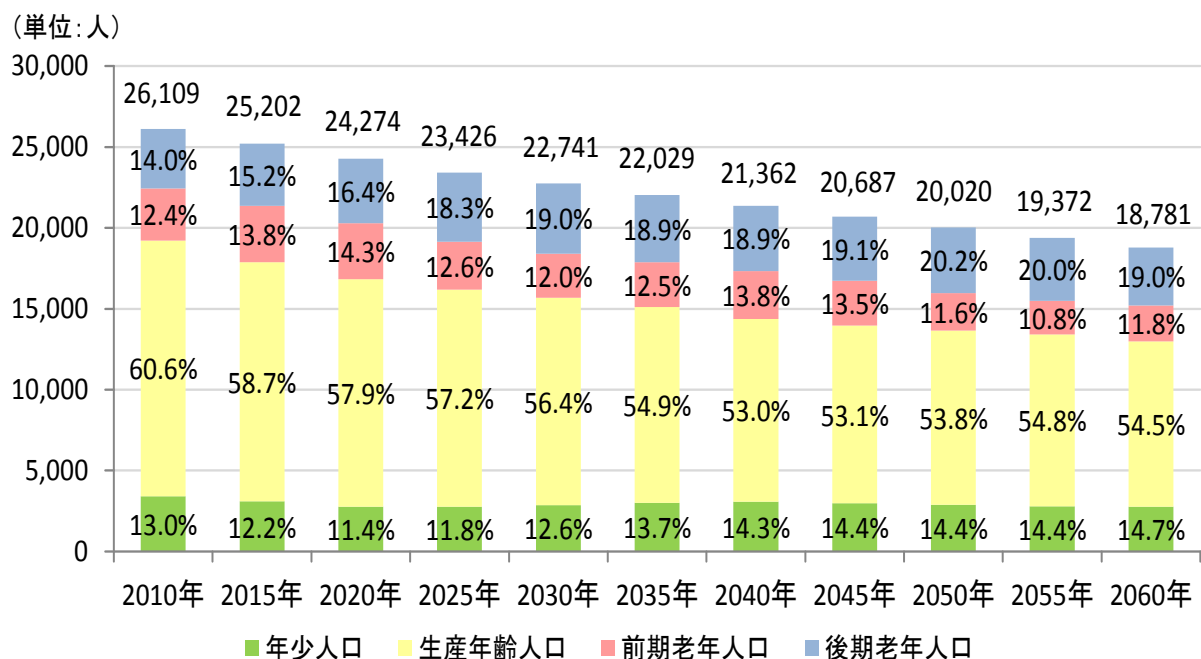
- ・アンケートの結果では、市内在住の高校生、過去5年間の市転入者ともに市への愛着や市の住みやすさについて好意的な回答が多くなっています。

（２）御坊市の目指すべき将来の方向

- ・以下の2点に重点を置くことで、人口減少を最小限におさえます。
 - ①若年層に注目し、進学、就職を機に本市を離れた若者が戻ってこられる環境を形成することで、就職を機とした若年層の流出を抑制していきます。
 - ②あわせて、本市で安心して子どもを産み、育てられる環境を形成することで、若いファミリー層の流出を抑制するとともに、現状、和歌山県や全国と比較して高い状況にある合計特殊出生率を向上させます。

5. 人口の将来展望

御坊市の将来展望人口として、前述の御坊市の目指すべき将来の方向を踏まえ、合計特殊出生率が2025年までに国民希望出生率（1.8）、2030年までに人口置換水準（2.1）まで、2060年までにアンケート調査による理想の子ども的人数の平均（2.28）まで上昇、また、若年層（10～39歳）の移動について国立社会保障・人口問題研究所推計の純移動率をベースに、現在よりも進学・住み替え等による転出を減らし、本市に戻ってくる・入ってくる人が増える想定し、人口推計を行いました。

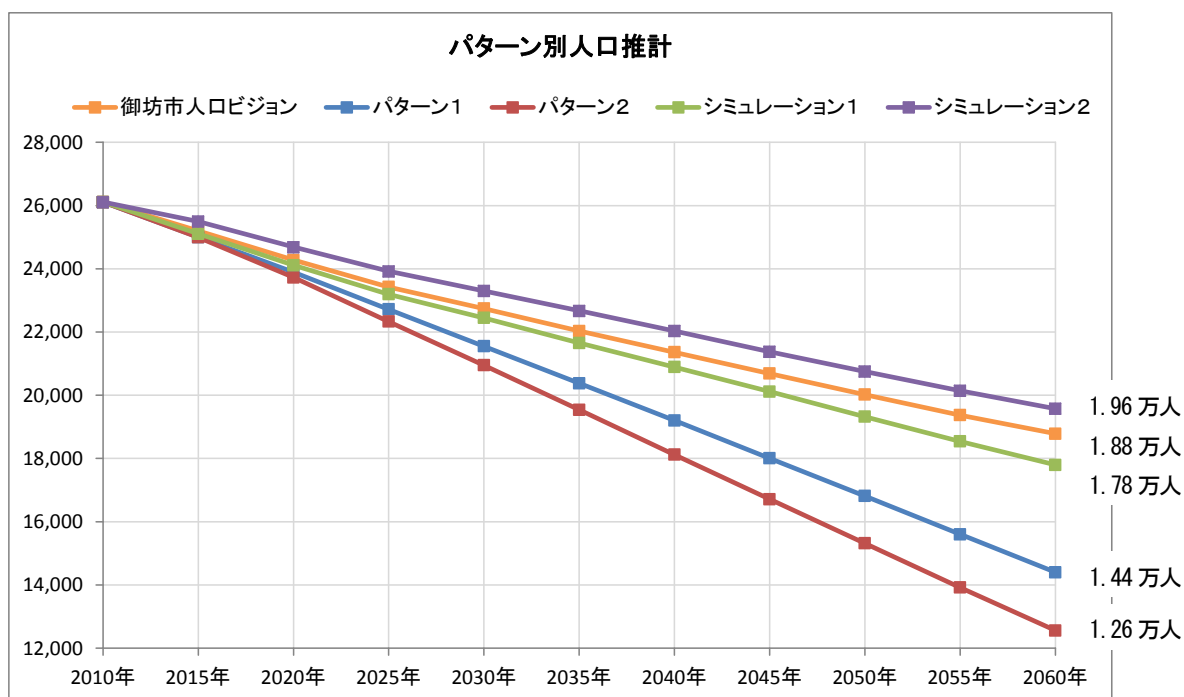


◇高齢者1人を支える 現役世代の数

	御坊市 推計	【参考】 県推計
2010年	2.29	2.19
2015年	2.02	1.82
2020年	1.89	1.66
2025年	1.85	1.58
2030年	1.82	1.54
2035年	1.75	1.49
2040年	1.62	1.41
2045年	1.63	1.43
2050年	1.69	1.5
2055年	1.78	1.61
2060年	1.77	1.73

- ・総人口は2060年で18,781人になると推計され、2010年から2060年までの減少率は約28%となっています。
- ・2010年から2060年までの減少率を4区分別にみると、生産年齢人口（15～64歳）が35.3%と最も大きく、次いで前期老年人口（65～74歳）が31.3%、年少人口（0～14歳）が18.8%、後期老年人口（74歳～）は2.5%と予測されます。
- ・高齢者1人に対しての生産年齢者の人数は、2060年で1.77人となり、県の値1.73を上回っています。

◆参考：パターン別人口推計



(単位: 人)	御坊市人口 ビジョン	パターン1 【社人研】	パターン2 【創成会議】	シミュレー ション1	シミュレー ション2
2010年	26,109	26,109	26,109	26,109	26,109
2015年	25,202	24,998	24,997	25,107	25,497
2020年	24,274	23,889	23,723	24,110	24,687
2025年	23,426	22,716	22,332	23,196	23,920
2030年	22,741	21,551	20,950	22,447	23,303
2035年	22,029	20,376	19,540	21,654	22,673
2040年	21,362	19,202	18,120	20,893	22,033
2045年	20,687	18,007	16,710	20,113	21,376
2050年	20,020	16,813	15,316	19,323	20,753
2055年	19,372	15,601	13,920	18,539	20,143
2060年	18,781	14,399	12,560	17,795	19,576

(資料：まち・ひと・しごと
創生本部「RESAS」)

◇高齢者1人を支える現役世代の数

	御坊市人口 ビジョン	パターン1	パターン2	シミュレー ション1	シミュレー ション2	【参考】 県推計
2010年	2.29	2.29	2.29	2.29	2.29	2.19
2015年	2.02	2.01	2.01	2.01	2.00	1.82
2020年	1.89	1.87	1.87	1.87	1.86	1.66
2025年	1.85	1.82	1.82	1.82	1.82	1.58
2030年	1.82	1.76	1.75	1.78	1.77	1.54
2035年	1.75	1.67	1.65	1.70	1.71	1.49
2040年	1.62	1.50	1.45	1.57	1.60	1.41
2045年	1.63	1.43	1.36	1.57	1.61	1.43
2050年	1.69	1.42	1.31	1.62	1.68	1.50
2055年	1.78	1.41	1.28	1.69	1.81	1.61
2060年	1.77	1.33	1.15	1.69	1.67	1.73